

常 設 委 員 会 報 告



総務委員会報告

委員長 阿部 暢夫

令和2年度総務委員会は、下記の10名にて構成されています。

- 委員長：阿部 暢夫(富士開発(株))
- 副委員長：加藤 信治(株)松原工事事務所)
- 委員：西部 雅英(株)ヨコタテック)
- 委員：坂本 健二(株)東海ジオテック)
- 委員：真鍋 保幸(東海地質工学(株))
- 委員：天木 亨(興亜開発(株))
- 委員：田畑喜久夫(株)フジヤマ)
- 委員：山本 貢司(東洋地研(株))
- 委員：土屋 靖司(株)富士和)
- 委員：近藤 拓己(不二総合コンサルタント(株))

当委員会は、協会運営の全体の総括を担当しています。主な活動としては、

- イ)公正取引に関する法令遵守及び論理規定に関すること
 - ・独占禁止法遵守講習会の開催
- ロ)新入会員の入会促進運動
- ハ)地質調査の資格試験に関すること
 - ・地質調査技士等、資格検定試験の実施
 - ・地質調査技士受験対象者講習会の実施
 - ・登録更新講習会の実施
 - ・地質情報管理士資格検定試験
 - ・その他地質調査技士に関すること
- ニ)四支部協議会の実施
- ホ)会員相互の親睦会の実施
- ヘ)その他協会運営に関すること

以下に主な活動報告を致します。

今年度は新型コロナ感染対策により3密を避けるためほとんどの活動計画が規制され、中止になった行事が多くありました。

●親睦ボーリング大会

今年度は新型コロナ感染対策のため中止になりました。

●第55回地質調査技士資格検定試験

今年度は新型コロナ感染対策のため、全国地質調査連合会との協議により中止になりました。

●第57回地質調査技士受験者対象講習会

地質調査技士資格検定試験が中止となったため、この講習会は行っておりません。

●令和2年度コンプライアンス講習会

今年度は新型コロナ感染対策のため通常の講習会は開催できず、公正取引委員会より提供された資料を、協会のホームページよりダウンロードし、協会会員会社ごとに、社内講習会として実施しました。

テーマ：独占禁止法の概要

(入札談合に対する規制を中心に)

令和2年10月 公正取引委員会 中部事務所

●令和2年度地質調査技士登録更新講習会

登録更新講習会は、全国地質調査連合会の指導の下、DVDによる自主講習と課題の提出による講習に振り替えました。

受講者数

DVDの自主講習による更新：181名

CPDによる更新：19名

●四支部協議会

中部協会と県協会(愛知・岐阜・三重・静岡)との四支部協議会を年一回実施し、中部協会との連携を密に協会の技術力、品格等の向上及び会員企業発展のため努力しています。

今年度は、新型コロナ感染対策のため、各支部の活動報告資料を配布しリモートでの協議を行いました。

●新春賀詞交換会・麻雀大会

今年度は新型コロナ感染対策のため中止になりました。

●その他

今年度は中部地質調査業協会の60周年記念事業を開催する予定で、特別委員会を発足いたしました。コロナ禍の開催となるため、来年度に延期が決定しております。

今年度はすべての行事が通常の実行ができず中止または開催方法の変更が余儀なくされました。

委員会活動に対してご理解並びにご尽力とご協力をいただいた各委員及び会員各位に心から感謝申し上げます。



研修委員会報告

委員長 大久保 卓

令和2年度の研修委員会のメンバーは以下の10名で構成されています。

委員長：大久保 卓((株)大和地質)
副委員長：小川 博之((株)アオイテック)
委員：都築 孝之(日本物理探鉱(株))
委員：中山 宏史((株)総合開発調査)
委員：大出 彰宏(日特建設(株))
委員：小笠原朋弘((株)ティビー)
委員：伊藤 健二((株)日さく)
委員：中野強一郎((株)中野地質)
委員：大井 寿彦((株)東日)
委員：高橋 将也(村木鑿泉探鉱(株))

当委員会の本年度の活動内容は以下の通りです。

- イ) 協会の技術向上のための技術研究会・講習会の開催
- ロ) 現場見学会による研修会の開催(隔年実施予定)
- ハ) 技術講習会としての新春技術者懇談会の開催
- ニ) 女性技術者活躍推進座談会の開催

以下に主な活動について報告します。

尚、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、委員会活動が延期又は中止となりました。協会の皆様は大変御迷惑をおかけ致しました。

その中で、唯一、女性技術者活躍推進座談会並びに女子高校生を対象とした講習会を開催することができました。

●令和2年度女子高校生への講習会開催

開催日時：令和2年9月19日(土)
会場：名古屋女子大学高等学校(講堂)
参加者：約40名
講師：岩崎 理代(女性技術者WGリーダー)
((株)ダイヤコンサルタント)



写真-1 女子高校生への講習会の様子

議題「地質リケジヨ講座」について、岩崎講師より当協会の魅力をアピールしてもらい、理系技術者の現場等について理解を深めて頂いた。

内容は、地滑りが起こるメカニズムについて、手作りの実験装置での実演を交えながら説明を行った。理系技術者にも文系出身の方が一定数いる事、段々と女性が働きやすい環境が整ってきていること、何を学んで何を仕事に活かすかが大切であることを学んでいただけたと思います。

参加した女子高校生の皆様は、関心を持ち大満足で大変有意義な講習会となりました。

●令和2年度女子技術者座談会の開催

開催日時：令和2年11月16日(金)
会場：ホテル名古屋ガーデンパレス
参加者：13名
議題：女性が働きやすい環境づくり(キャリアアップについて)

座談会も今年で3回目になります。今回は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、ソーシャルディスタンス及び三密を避ける為に会場を広い場所とし、検温、マスク着用にて実施しました。

ワークライフバランスについて、業界で働く女性たちの悩みや問題点を抽出し、対処策等、又キャリアアップについても意見交換をしました。参加者全体がリラックスしたざっくばらんな討論を交わし、大変盛り上がりしました。

又、女性技術者WGのメンバーにより、地質調査業界のパンフレットを作成し、令和3年度には、大学・高等学校・専門学校等に配布する予定です。参加されました女性の皆様、更に各社の代表者の皆様様の御理解、御協力に心より感謝申し上げます。



写真-2 女子技術者座談会の様子

最後になりますが、委員会活動に対してご尽力並びにご協力いただいた各委員、女性技術者WGのメンバー及び会員各位に心から感謝申し上げます。



女性活躍推進ワーキング活動報告

女性活躍推進WG 岩崎 理代

1. ワーキングの構成

女性活躍推進ワーキンググループは平成30年度に研修委員会のもとで新しく発足され、昨年度に引き続き以下7名のメンバーを中心に活動を行ってきた。

リーダー◎岩崎 理代((株)ダイヤコンサルタント)
 石原 聖子(中部土質試験協同組合)
 下山 友実(玉野総合コンサルタント(株))
 高見 幸恵(川崎地質(株))
 二宮 真帆((株)朝日土質設計コンサルタント)
 平江 喜子(応用地質(株))
 三好 千春(東邦地水(株))

2. 活動の概要

令和2年度のワーキングの活動は新型コロナウイルスの影響で制限されたものの、ZOOMを活用したリモートでの活動を含め、6月、9月、11月の計3回行った。

活動の内容は主に以下の5点。

昨年度からの継続活動として

- ①女性技術者座談会の開催
- ②内閣府の取り組み(リコチャレ)への参加
今年度の新たな取り組みとして
- ③SNSでの情報発信をするべくTwitterの運用を開始
- ④女子高校生に向けたミニ授業
- ⑤中部地質調査業協会のポスター制作

を行った。なお、昨年度からの継続活動である⑥大学オープンキャンパスへのブース出展はオープンキャンパス自体が、新型コロナウイルス拡大の影響で非対面となったため、今年の参加は断念した。

①女性技術者座談会の開催(11月)

女性技術者同士のネットワーク構築や、働きやすい環境づくりに向けた問題抽出を目的として、女性技術者座談会の開催を計画した。詳細は3項。

②内閣府の取り組み(リコチャレ)への参加

理工チャレンジ(リコチャレ)とは理工系分野に興味のある女子中高生・女子学生に向けて進路選択を応援するため内閣府男女共同参画局が中心となって行っている取り組みで、理工系分野の大学や企業などが『リコチャレ応援団体』として紹介されており、理工系分野で活躍する女性からのメッセージ紹介などを行っている。

今年はこちらも新型コロナウイルス拡大の影響で、イベントの掲載を行えないなどの制限があったが、今後も女子学生の進路選択に地質調査業を一つの道として考えられるよう、ワーキングの活動などを発信していくため、定期的な更新や活動の掲載依頼を行っていききたい。

③SNSでの情報発信

地質調査業知名度向上を目指した活動の一環としてより多くの若者や女性に業界のことを知ってもらうために

SNS(Twitter)での定期的な情報発信を行っている。情報の内容としては、地盤・地質・土質等幅広く、専門的なことから誕生石や化石についての話題、現場近くのスポンサー情報など学生に興味を持ってもらえそうな内容まで幅広く行っている。内容に関しては、業務内容に差しさわりのないものやハッシュタグなどいくつか制限があるということもあり、メンバーで模索中というところもあるので現在の更新頻度はさほど高くないが、今後さらに更新内容を充実していきたいと思う。

応援の意味を込めて、ぜひフォローしていただきたい。
 (@chubu_geo_waw)/Twitter



図-1 TwitterロゴとQRコード

④女子高校生に向けたミニ授業

今年度初の試みとして名古屋女子大学高等学校1年生を対象にミニ授業を行った。詳細は4項。

⑤中部地質調査業協会のポスター制作

編集委員会からの依頼で、中部地質調査業協会のポスターを制作することとなった。詳細は5項。

3. 女性技術者座談会の開催

3-1 女性技術者座談会の概要

女性活躍推進ワーキンググループでは、2020年11月6日に「女性が働きやすい環境づくり」をテーマに第3回女性技術者座談会を名古屋ガーデンパレス(中区)で開催した。当初は7月に開催する予定であったが、新型コロナウイルス拡大の影響で開催延期となり、11月の開催となった。会場では、手指消毒や検温、人数に対して広い部屋を用意し、ソーシャルディスタンスの確保など対策を行ったうえで実施した。

例年のワールドカフェ方式に比べ、参加者の間で少し喋り足りない印象はあったものの、充実した意見交換ができた。

今年からの新しい試みとして、座談会初めの数分を委員のキャリアパスを本人が紹介する時間とし、就職してから資格取得のタイミングや転職、昇職など、自身のキャリアパスを考える上で具体的なイメージが付きやすいよう働きかけ、その後の座談会で活発な議論ができるよう促した。

座談会の内容としては、主にワークライフバランスについてや業界で働く女性ならではの悩みなどを抽出、共有

し、それらの対処策について話し合った。

今年はコロナ禍での仕事の仕方など自分の仕事環境を見直す機会があったであろうことから、リモートワークや勤務時間についても議題とした。

参加者はワーキンググループメンバー6名を中心に経験年数1年～28年という幅広い計9名の方に参加いただいた。開催時期が繁忙期だったこともあり、参加人数が少なかったものの、年齢や所属の垣根を越え、リラックスした雰囲気ですごくばらんに意見を交わすことができた。



写真-1 座談会の様子

3-2座談会での議論

「女性が働きやすい環境づくり」と題し、女性技術者として働く上での問題点、その解決策やより働きやすくするための制度等について議論した。今年度は奇しくも在宅勤務等、業界全体の働き方がイレギュラーで、多くの会社で新たな制度(時差出勤やフレックスタイム等)ができた一年であったため、それに伴った自分なりの働き方の見直しや今後のビジョンについて活発な意見交換が行われた。

根本的に女性活躍推進というワード自体が男性目線のものであるのではないかと。

という参加者からの鮮烈な問題定義から始まり、若年層からは、仕事内容が多く、今でさえ満足に休暇を取ったりしづらい。結婚して子供を持ちたいと考えたときに、正直いつまでこの仕事を続けていられるかという不安も出た。また、コロナ禍でうまれた就業形態を今後も続けていきたいという意見なども見受けられた。

以下に意見交換の中で出た就業制度について、今後続けていきたい、または自分の会社に導入してほしいと賛同の多かったものを挙げる。

- ・フレックス制度(フレキシブルな時差出勤)
- ・時間休の取得
- ・在宅勤務(業務内容による)

上記三点の利点として共通するところは、親や子の世話(看護)、子の学校行事への参加、資格の勉強、趣味や家事など時間を有効に使い、最終的に就業意欲の向上や長

くこの業界で働いていけることにつながるのではという意見であった。

これは、男女共同参画の意図にも準じていて、これらの制度を整備することによって男性の家事介護育児への参加や趣味と仕事の両立を図ることで、就業意欲の向上などにつながるなどが期待され、最終的には若手技術者の業界離れに歯止めをかけることができると考えられる。



写真-2 参加者の集合写真
(集合写真も感染症対策。一列横並びで撮影)

非常にお忙しい時期に今回の企画に参加いただいた皆様、座談会出席にご理解いただいた各社に感謝申し上げます。

3-3座談会の参加後アンケート

座談会の参加後に行ったアンケートでは、参加者全員に回答いただいた。全員の参加者から参加してよかった、今後も参加したいとの意見をいただいた。

今後、女性活躍ワーキンググループにどのような活動を期待するかとの問いには

- ・女性技術者がもっと増えるような活動
- ・リコチャレの充実
- ・他の女性技術者の会との交流

との意見をいただいた。

意見・感想など自由記述欄では

- ・他社の制度などの話が聞いて良かった。
- ・感染症の心配がなくなったら、季節のイベントなどがあたらいいと思う。(定期的に集まりたい)

といったポジティブな意見や感想をいただいた。

4.女子高校生に向けてのミニ授業

4-1女子高校生に向けてのミニ授業の概要

女子高校生へ向けて、理系の進路選択を応援し、地質調査業を知ってもらうことを目的として、9月19日に名古屋女子大学高等部一貫コース4年生(高校一年生)43名を対象に3時間のミニ授業を行った。

4-2ミニ授業の内容

まず小冊子「日本ってどんな国？」を配布した。また、スライドを使って地質調査業の紹介、女性技術者のキャリアパスを紹介、具体的な業務の内容などを説明した。

地質調査業の紹介として、計画、設計、試験、調査、点検などの分野を、生活に直結する身近なわかりやすい部分から少し専門的な部分までを網羅した。

また、キャリアパスの紹介では、メンバーの経歴をもとに、大学での学部や研究テーマから、現在の仕事内容までを簡単に紹介した。

他にも、ミニ実験として地すべりの模型を作成し、披露した。円弧すべりの原理の説明や実際に装置で降雨があって山肌がすべる様子を目の当たりにした高校生は、前のめりになって興味津々の様子であった。また地すべり対策工として、抑え盛土工、アンカー工、水抜きポーリングなどを模型を使って再現し、再度実験を行い、対策工の効果を体験していただいた。

思いのほか好評であったのが、薄片の偏光顕微鏡写真で、カラフルに輝くさまが女子高生を引き付けたのか、急遽、実物の薄片を手に取り見られる時間を作ったほどであった。女子高校生たちからは「きれい!」「どうやったら石がこんなに薄くなるの?」「石の種類によって見え方が違うみたい!」などと感嘆の声が上がっていた。



写真-3 ミニ授業の様子



写真-4 ミニ実験

4-3まとめ

後に受講した女子高校生らから自由記述のアンケートを送っていただいた。一部を以下に紹介する。

- ・地質調査業というあまり馴染みのない分野だったが、一定数の女性の方が活躍していると知った。
- ・大学と学部を選ぶ段階で大体の将来は決まっていると思っていたが、そこで何に興味をもって何を学ぶかによって将来の職業選択ができることがわかった。
- ・ミニ実験が面白かった。
- ・薄片を初めてみて感動した。とてもきれいだった。
- ・あっという間だった。また聞きたい。
- ・どのような所で災害が起き、起きないように対策を考えるなど当たり前のことなのにそういう職業があるということを知った。

などの感想が寄せられた。

本WGでは、この経験をもとに女子中高生の理系への進路選択の応援や、業界の若手獲得に向け、このような活動を広げていきたいと考えている。

また、今回の活動で出会った学生らが具体的な将来のビジョンを思い浮かべる際に、地質調査業で活躍する姿があることを期待し、今後もこのような活動を続けていく予定である。

5.中部地質調査業協会のポスター制作

編集委員会からの依頼で中部地質調査業協会のポスターの制作を行った。(ポスターは次ページ掲載)

主な用途としては大学や高校、専門学校などの就職支援室への配布、掲示等であるため、写真を盛り込み、QRコードを掲載するなど、なるべくわかりやすくシンプルなものを目指した。

また、地質調査業が身近なものであると印象付けるため、都市計画をモチーフに作成した。

6.今後の活動について

女性活躍推ワーキンググループでは、来年度の活動として、女性技術者座談会の定期開催(年1回)と業界認知度の向上のため、リコチャレイベントの開催やリコチャレHPの更新、SNS(Twitter)での情報発信の充実、地元大学のオープンキャンパスでのイベントの開催を目指していく。

また、今年女性技術者座談会でのアンケート結果に応えるべく、現場見学会などの企画や他の女性技術者の会との意見交換や交流会の開催を進めていき、女性が働きやすい環境・制度を整備できるよう、協会への働きかけを随時行っていきたい。

地質調査業って？

インフラ整備の最先鋒から維持管理まで、
実はとっても重要な役割なのです！





広報委員会報告

委員長 河原 弘明

令和2年度の広報委員会は、委員長・副委員長をはじめ、以下の11人のメンバーで構成されています。

委員長：河原 弘明(中央開発(株))
副委員長：熊坂 明生(川崎地質(株))
委員：森 理(協和地研(株))
委員：亀谷 祐幸(大和探査技術(株))
委員：佐藤 安英((株)中部ウエルボーリング社)
委員：後藤 邦夫((株)テイクコ)
委員：竹市 雅司((株)東京ソイルリサーチ)
委員：狩野 行宏((株)中日本コンサルタント)
委員：服部 剛明(服部エンジニア(株))
委員：堀内 律輝(復建調査設計(株))
委員：藤森 弘則(株)増田地質工業)

(委員の順番は会社名頭文字のあいうえお順)

本年度の広報委員会活動は、令和2年度通常総会で承認されました以下の7項目です。

- イ)発注者に対する広報活動
 - ロ)中部地方整備局との意見交換会
 - ハ)発注者側からの積算等の依頼に対する応答
 - ニ)全地連積算委員との連携
 - ホ)「地質と調査」等、全地連刊行物の配布先の検討及び配布
 - ヘ)改訂版積算資料の広報宣伝活動
 - ト)広報活動での「土と岩」配布
- 以下に、主な活動について報告します。

●発注者に対する広報活動

発注者に対する広報活動は、理事長、副理事長、委員及び理事会社のご協力を頂き、8班編成で6月下旬～8月下旬にかけて行いました。

一次官庁本局については、理事長、副理事長、広報委員長が訪問しました。

広報委員会が担当する愛知、岐阜、三重、静岡及び長野県南部に所在する一次官庁及び独立行政法人については、コロナ感染拡大防止の観点から、訪問を自粛し、広報活動資料の配布を行いました。

愛知県協会、岐阜県協会、三重県協会、静岡県協会は、各県及び市町村を担当しました。

本年度の配布物は、以下の通りです。

- ・理事長挨拶状
- ・協会名簿
- ・機関誌「土と岩」68号
- ・全地連作成「地質調査業務発注ガイド」
- ・防災協定の写し

「土と岩」は中部協会の機関誌として長年にわたり受け継がれてきました。

今回配布した協会誌68号は、「若手技術者の挑戦」をテーマに特集を組んだものです。特集では協会の若手技術者の方に、業務での失敗談や目標とするエンジニアリング像、夢やこの業界に望むことを執筆いただいております。これを受けて、中堅ベテラン技術者が、「若手技術者に伝えたいこと」と題して、経験談を交えて若手技術者へエールを送っています。ぜひともご覧になってください。また、同号には特別寄稿「静岡大学防災総合センター」の活動紹介や散文「身近な地質スポット【後編】」の紹介等盛りだくさんの内容を記載しています。配布先では、協会誌の完成度の高さに多くの方々が感心され、技術資料としても価値が高いとお声を頂戴し、各所で各部署の皆様方にも回覧するとのお約束頂きました。

同号には令和元年10月31日に国土交通省中部地方整備局と行った「令和元年度中部地区における地質調査業に関する意見交換会」の様態も報告しています。

広報活動の際に各発注者へ配布しました全地連作成「地質調査業務発注ガイド」は、地質調査の基本的考え方、適切な地質調査の計画立案や積算をするための留意点などを簡潔にまとめたものですので、地質調査業務発注の経験の少ない方にもわかりやすい内容となっております。是非ともご活用ください。

地質調査の重要性について、各発注者の理解は、年々、高くなってきています。また、長年に亘る広報活動等の結果、中部協会の認知度も高くなっており、突然の訪問にも関わらず各発注者には快く対応して頂き、ここに、紙面をお借りして深く感謝申し上げます。

●中部地方整備局との意見交換会

国土交通省中部地方整備局との「令和2年度地質調査業に関する中部地方整備局との意見交換会」は、意見交換会の内容を発注等に活かしてもらえるように、今年度でもできるだけ早期に開催できるように取り組み、令和2年10月29日に桜華会館にて開催し、整備局より貴重な意見を賜りました。その様態は本誌でご報告していますので、是非ともご覧ください。

●委員会の取り組み

広報委員会は、今後もますます(一社)中部地質調査業協会・地質調査業の更なる地位向上を目指し、発注者に対する広報活動や意見交換会等を実施してゆく所存です。重ねてご発注者及び協会員皆様のご協力をお願いします。



技術委員会報告

委員長 土本 浩二

今年度は、ミニフォーラムの企画・開催や学協会行事への共催、協力を主な活動としてきました。

技術委員会のメンバーは、以下の9名です。

委員長：土本 浩二((株)ダイヤコンサルタント)
副委員長：深谷 雄二(玉野総合コンサルタント(株))
委員：浅川 実(日本エルダルト(株))
委員：阿部 卓也((株)岐阜ソイルコンサルタント)
委員：片岡 泰((株)キンキ地質センター)
委員：小西 純一(サンコーコンサルタント(株))
委員：広瀬 義純((株)アサノ大成基礎エンジニアリング)
委員：土屋 国彦(土屋産業(株))
委員：由井 恒彦(松阪鑿泉(株))

主な技術委員会活動は、以下の通りです。

(イ)会員各社の技術向上を目的とした技術研究の促進

・「中部ミニフォーラム2020」企画・開催(R2.10.2)

(ロ)地盤工学会中部支部、日本応用地質学会中部支部等の諸行事への共催、事業協力

・令和元年台風19号の災害調査として参加した地盤工学会千曲川流域調査団のとりまとめとして、「令和元年台風19号(東日本台風)および10月末豪雨災害に関する調査報告書」を共同執筆(R02.5)

なお、コロナウイルス感染拡大の影響で、例年開催される「地盤調査ボーリング作業見学会」、「全地連が主催する講習会の開催支援の開催」その他が残念ながら中止となりました。

■中部ミニフォーラム2020

コロナウイルス感染拡大の影響で一時は開催も危ぶまれましたが、運良く感染拡大が落ち着いたタイミングの10月2日、名古屋国際会議場にて、徹底的な感染対策を施したうえで開催でき、例年に遜色のない58名の参加を賜りました。

今年度は、例年に増して若手・中堅技術者の発表力の向上に注力し、発表編数を12編から7編(募集は9編)に減じ、質疑応答時間を10分と十分に確保するなど、「練習の場」をより色濃くしました。各セッションでは、座長による講評、活発な質疑応答が行われました。さらに、特別企画のテーマを「作り方・見せ方・話し方」とし、元中部土質試験協同組合専務理事の坪田邦治氏による「論文・PPT作成とプレゼンのポイント」と題した講義を頂きました。

特別企画講演はアンケートでは大好評で、今後のバイブルにしたいとの複数の会社より希望がありました。講演資料については坪田氏のご了解を頂きまして協会員に公開しておりますので活用ください(会員専用ページ⇒会員の皆様へ⇒9/16第三セッション)。

優秀論文発表者は、論文(技術委員会による初稿審査)

及び発表審査の結果、下記の2名の方に決定しました。

- ・「粒度(沈降)分析における砂分の影響について」
：大橋 翔(中部土質試験協同組合)
- ・「地すべりにおける地すべりブロック推定の事例」
：福寄 秀明(基礎地盤コンサルタンツ(株))



中部ミニフォーラム2020 発表会場

■地盤工学会千曲川流域調査団 調査報告書

地盤工学会による令和元年台風19号および10月末豪雨災害の災害調査のうち、千曲川流域調査団(地盤工学会中部支部・北陸支部合同)に中部地質調査業協会として参画し、共同執筆者としてとりまとめを行いました。担当は、千曲川58k左岸(穂保地区)の堤防被害箇所であり、地盤工学会のHPで公開されている「令和元年台風19号(東日本台風)および10月末豪雨災害に関する調査報告書」に掲載されております。



図 4.2.9 千曲川左岸 58k 付近の UAV 写真 (2019 年 10 月 13 日 13 時 10 分頃) ①

写真 調査団報告資料より引用

(出典：国土交通省北陸地方整備局：千曲川堤防調査委員会資料)

このほか、今年度はコロナウイルス感染拡大の影響で下記の行事への共催・後援にとどまりました。

■地盤工学会中部支部

- ・第29回調査・設計・施工技術報告会(R2.6.19.)
- ・第32回中部地盤工学シンポジウム(R2.10.3.)

■日本応用地質学会中部支部

- ・応用地質学講座「阿寺断層巡検」(R2.12.4.)

防災委員会報告

委員長 武藤 英教

令和2年度のメンバーは以下の7名です。

委員長：武藤 英教(青葉工業(株))
副委員長：澤田 哲郎((株)朝日土質設計コンサルタント)
委員：澤田 茂((株)興栄コンサルタント)
委員：下原 甚介(国土防災技術(株))
委員：小川 晴彦(東海テクノス(株))
委員：齋 秀((株)東海建設コンサルタント)
委員：岡野 直次((株)ランドテクト)

本年度の委員会の活動内容は以下のとおりです。

- 1.中部地整との災害協定に基づく、事業者リストの更新作業
- 2.「南海トラフ地震対策中部圏戦略会議」の構成員として、会議に参加
- 3.震度6弱の地震を想定した防災訓練の企画・実施

1.事業者リストの更新作業

中部地整との災害協定に基づき事業者リストの更新作業を行い、6月末に提出しました。

今年度は、登録協会員59社、本店・支店・営業所を合わせて計95事業所が登録され、登録派遣人員数は550名となっています。

災害時派遣登録人員(5県合計)

土 質-(土・基礎)	231 人
地 質-(地 質)	200 人
地すべり-(河川・砂防)	119 人
合計	550 人
ボーリングマシン	149 台

2.南海トラフ地震対策戦中部圏戦略会議の構成員としての活動

令和2年6月 第11回南海トラフ地震対策中部圏戦略会議が「書面審議」にて開催されました。

構成機関は、「中部圏地震防災基本戦略」に基づいて取り組みを進めるとともに、戦略会議や地震・津波対策アドバイザー会議による情報共有・意見交換や南海トラフ巨大地震を想定した訓練等を連携して進めています。

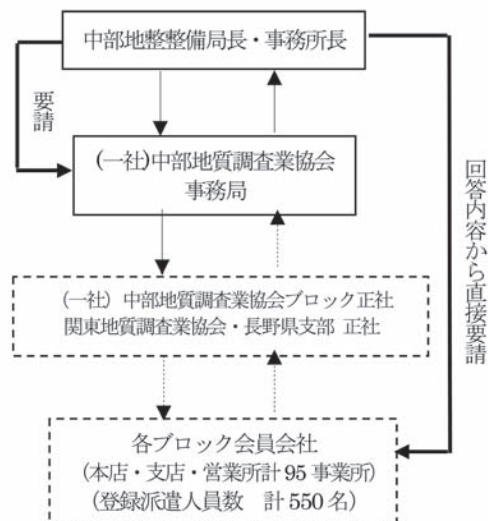
3.「防災訓練(情報伝達)」の企画・実施

中部地整との災害協定を円滑に履行するために、毎年防災訓練をおこなっています。中部地方整備局管内で震度6弱の地震が発生し、協会事務局が被災したことを想定して9月25日に実施しました。

施設提供の協定により中部土質試験協同組合に災害応急対策本部を設置し、訓練当日は5県にまたがる登録会

員95事業所に対し、PCメールで情報収集を行いました。

回答率は83%(昨年は76%)で毎年75%以上の会員に情報伝達が行われています。



R2年度防災訓練 災害応急対策派遣 動員数 数量報告

R02年度	登録 会員数	合計	機長 助手	ボーリング 機械
		(名)	(名)	(台)
登録	95	550		149
出動	79	223	171	89
比率	83%	41%		60%



災害対策本部からの情報収集状況

以上が活動報告です。

全国に災害が多発する中で、中部地整との災害協定を軸に、中部土質試験協同組合との施設提供の協定締結や、地盤工学会中部支部との災害時相互協定の締結を行い、協会としての防災体制を構築してきました。

この協定を円滑に履行するためには、構成員のBCP体制の構築が重要です。

会員各社におかれましては、引き続き要請時への連絡派遣対応が円滑にできるよう社内防災体制の確立に引き続き努めていただきますようお願い申し上げます。



編集委員会報告

委員長 和田 昌樹

令和2年度の編集委員会は、下記の9名で運営してきました。

委員長：和田 昌樹(応用地質(株))
副委員長：松浦 好樹((株)ジーベック)
委員：吉岡 恭一(明治コンサルタント(株))
委員：黒田 了介((株)グランドリサーチ)
委員：藤本 俊之((株)東建ジオテック)
委員：森崎 祐治(静岡コンサルタント(株))
委員：松本 隆(丸栄調査設計(株))
委員：勝間 浩一(南海カツマ(株))
委員：小田 秀昭((株)建設コンサルタントセンター)

本年度の編集委員会活動は、以下の通りです。

- ①中部地質調査業協会の機関誌「土と岩」68号の発刊、配布先の検討、配布、69号の企画制作
- ②中部地質調査業協会のホームページの管理および更新・改良(HPワーキング担当、次頁にホームページワーキンググループの活動内容を別途掲載)。

●「土と岩」69号の編集作業と方針について

令和2年度は、コロナ感染症拡大の影響により、集合形式による委員会が開催できませんでした。このため、69号の企画・構成から執筆者の選定と原稿依頼、受領原稿の校閲、デザイン構成等をすべてメール審議により行い、発刊の準備を進めるという、コロナ禍における急激な変化の中での企画・編集作業となりました。

編集方針については、当初、今年度の「土と岩」に関しては、本協会が設立60周年を迎えることから「60周年記念号」として盛大に発刊する予定でした。ところが、外出自粛要請と3密回避の観点から、60周年記念式典が来年度に延期されたことを受け、例年よりやや規模を縮小した本号を発刊することとなりました。

●寄稿

本号では、次の2編の論文を寄稿いただき、掲載することとしました。

- ・岐阜大学 工学部附属インフラマネジメント技術研究センター教授 沢田 和秀様
- ・株式会社シマダ技術コンサルタント 技術管理部長 坪田 邦治様

沢田様には、平成30年7月および令和2年7月に発生した豪雨災害を取り上げ、相互協力体制の必要性に関して執筆していただきました。大規模災害への対応のあり方として、今後の業務を実施していく上での一助になればと期待しております。

また、坪田様には、「若手技術者の皆さんへ伝承できていないこと」として「軟弱地盤上での低盛土道路における

交通荷重の影響」を取り上げて執筆していただきました。

近年、地質調査業界でも若手技術者不足や技術の継承に対する危機が叫ばれる中、今回執筆いただいた“大規模災害”や“軟弱地盤問題”は、次世代に引き継がねばならない重要課題であると考えます。今回掲載した論文が契機となり、多くの若手技術者がこれら諸問題に興味を持ち、疑問を抱き、そして課題解決に向けた取り組みを実践することを期待いたします。

●散文

散文は、これまでの協会ホームページに掲載されてきた「身近な地質スポット」が、一般の読者にも気軽に読んで頂ける内容であることから、これを再編集して載せることとしたものです。

この「身近な地質スポット」は、67号に前編、68号に後編を掲載し、一旦は完結に至ったのですが、読者の方からの好評につき、今回、第3弾として特別に掲載することとしたものです。

今回は、最近HPに掲載した2箇所に加え、新たに取材を行った1箇所の計3箇所について紹介しています。もちろん好評の「地質スポット近くで食べられるラーメンスポット」も掲載しております。

●その他の記事等について

令和2年10月に開催した国土交通省中部地方整備局との意見交換会の内容を掲載いたしました。現状の発注環境や業界の課題等について垣間見ていただけるものと思いますので、会員の皆様のみならず、広く読者の皆様にご一読いただければと思います。

また、協会で若手育成の一環として毎年開催しています中部ミニフォーラムでの優秀賞2編、また、協会活動報告として常設委員会である総務、研修、広報、技術、防災、編集の各委員会報告と、女性技術者ワーキング、ホームページワーキングの活動報告をまとめました。

末筆ながら、お忙しい中、本誌に寄稿いただきました皆様には、改めて深く感謝いたします。

今後も、皆様に興味深く愛読される機関誌づくりを目指してまいりますので、よろしくお願いいたします。

ホームページワーキング活動報告

編集委員会・ホームページWG
宮尾 浩一

令和2年度のワーキングの構成

令和2年度のホームページワーキングは、以下のメンバーのほか、中西副理事長、和田編集委員長が加わる構成で、活動を行ってきました。ただし、新型コロナウイルス拡大防止の観点から、担当ごとで活動し、必要に応じてメール・電話・SMS等で審議・検討しました。協会の一体感醸成、協会ホームページの認知度向上、連携強化の一環として、静岡支部からのメンバーも昨年同様、引き続き参加いただきました。

委員：宮尾 浩一(応用地質(株))
委員：米田 英治(川崎地質(株))
委員：津坂 喜彦((株)アオイテック)
委員：鈴木 優(基礎地盤コンサルタンツ(株))
委員：小倉 直也(東邦地水(株))
委員：黒田 了介((株)グランドリサーチ)

令和2年度の活動の概要

令和2年度のホームページワーキングは、ホームページ利用者アンケートの整理・分析、年度活動計画の議論、協会・会員企業の役員交代・移転等への対応(4月～5月)から始まりました。利用者アンケートで寄せられたご意見、ご要望等については、ホームページに関わるものは、例年同様、ワーキングの年間活動計画の参考にさせていただきました。協会の活動に対するものについては、ワーキングの意見も付して、親委員会である編集委員会を通じて役員会に報告し、各委員会の活動の参考とすべく展開させていただきました。

年間を通した定期的な活動として、各支部活動のお知らせ、身近な地質スポット、歴史地震スポット等の追加、地質調査や協会活動にも関係深そうなトピック情報の収集・抜粋・掲示、ホームページ不具合の解消活動等を行ってきました。ただし、予定よりも遅れた項目、作業も発生しました。

以上のように、例年の活動からすると幾分低調ですが、ホームページの不具合の改善、ホームページ利用者の利便性の向上を図ってきております。

中部地質調査業協会機関誌「土と岩」への協力

今年度も、昨年度に続き、親委員会である編集委員会からの依頼に基づき、機関誌「土と岩」作成に協力しました。具体的には、今年も、ご要望に基づき、「身近な地質スポット」の新規開拓・紹介、一部再編集を行い、散文として原稿提供を行いました。興味のある方はご覧下さい。

全国地質調査業協会連合会機関誌「地質と調査」への協力

これは、全地連より編集委員長に届いた「各地の博物館巡り」に関して、編集委員長の依頼に基づき、原稿作成したものです。

原稿作成に当たり、候補の抽出、既往号での紹介の有無、候補の選定を経て、候補を選定しました。その上で現地取材を行い、原稿を作成・提供しました。

こちらにつきましても興味のある方はご覧ください。

身近な地質スポットの追加

身近な地質スポットについては、恵那峡(傘岩・千畳敷岩)／岐阜県恵那市、油ヶ淵／安城市～碧南市を、今年度追加しております。お近くに行かれた際には、これらの記事を思いだしていただき、是非、お立ち寄りください。

なお、「恵那峡」は、約80年前に木曾川をせき止めて作られた大井ダムによってできた人造湖です。

「油ヶ淵」は、愛知県唯一の天然湖沼と言われている湖沼です。

ホームページでは、このほかにもたくさんのスポットを紹介しておりますので、こちらについても、是非、ご覧ください。

身近な歴史地震スポットの追加

身近な歴史地震スポットについては、身近にある地震・災害の痕跡を理解することを通じて、次の災害に備えていただきたい、との思いから、紹介を続けてきています。今年度も、寄せられた情報(パンフレット)の追加を行ってきております。



今年度追加したものは以下の地域の情報です(この原稿作成時点)。

北設楽郡 新城市 知多市 東海市 東浦町
岡崎市 半田市 一宮市 西尾市 豊橋市 田原市
名古屋市西区・守山区・千種区 津島市 豊川市
犬山市 瀬戸市 春日井市

歴史地震スポットにつきましても、ホームページでは、このほかにもたくさんの地域・スポットを紹介しております。東日本大震災から10年が経過しました。災害の記憶を風化させないためにも、次の災害に備えるためにも、お散歩がてら、地域に残る災害スポットに足を運んでみては如何でしょうか。

新たに追加したリンク等

これまで同様、ホームページ利用者に対する利便性の向上を図るため、他機関のホームページへのリンクを行いました。主なものを紹介します。

ひとつは、「国土交通データプラットフォーム1.0」。これは、一般公開されたことを受けリンク付けしました。このほかに、地質リスクへの関心の高まりを受け、資格取得コーナーに「地質リスク・エンジニア(GRE)」を追加しました。また、「土木事業における地質・地盤リスクマネジメントのガイドライン」を閲覧できるようにしました。

リンク集

お役立ちリンク

長野県神城断層地震 災害調査報告書:地盤工学会, 土木学会との合同調査
https://www.jiban.or.jp/?page_id=2549
当協会より7名が参加・執筆

インフラメンテナンス情報ポータルサイト: 社会資本のメンテナンスに関する情報
<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/maintenance/index.html>
社会資本の点検状況が確認できる

名古屋大学 減災館: 体験による市民に開かれた学びの場
<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/>
最先端の減災研究

Kuniziban: 国土地盤情報検索サイト
<http://www.kuniziban.gwri.go.jp/>
国土交通省の地盤情報を検索することができる。

国土交通省ハザードマップポータルサイト: 身の周りの防災に役立つ情報
<https://disaportal.gsi.go.jp/>
全国自治体のハザードマップを地図上で閲覧できる

日本シーメンス地質図: 産業技術総合研究所地質総合センター
<https://gbank.gsi.jp/seamless/>
日本全国の統一凡例を用いた地質図

「土木事業における地質・地盤リスクマネジメントのガイドライン」の策定:
国立研究開発法人土木研究所
<https://www.pwri.go.jp/jpn/research/saientan/tishitsu-jiban/ginkai-guide2020.html>
地質・地盤リスクマネジメントの基本事項、事業への導入・運用方法及び留意点を示すもの

「国土交通データプラットフォーム1.0」: 一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会
<https://www.mlit-data.jp/platform/>
国・地方自治体の保有する社会インフラに関する情報や点検結果、地盤情報を検索、表示、ダウンロードすることができる

地質図Navi: 産業技術総合研究所地質総合センター

地質調査に関する基本的な情報の充実

ホームページ利用者アンケートでは、地質調査に関する基本的な情報の充実を希望されるご意見もいただいております。

このご要望に応えるべく、新しいコンテンツ(「地質調査技術マニュアル エッセンス」)をホームページに追加しました。このコンテンツでは、『改訂版 現場技術者のための地質調査技術マニュアル』(一般社団法人 関東地質調査業協会 平成27年11月発行)を参考に、主要な地質調査技術のエッセンスを紹介しています。

地質調査技術について確認したいとき、種々の地質調査技術の概要を紹介したいとき、新しく入られた方の研修などでご活用ください。



ボーリング作業 準備の基本(陸上)

目的、内容、調査方法、工程などを確認

発注者の意図を十分に理解

現地に適した作業方法検討

不安全要素排除、安全法及び関連法規遵守

『改訂版 現場技術者のための地質調査技術マニュアル』を参考に作成

引き続き、ご支援・ご協力を

令和3年度の活動につきましても、これまで同様、皆様からのご意見、ご要望等を、できる限り活動に反映させる形で進めてまいります。引き続き、皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。